

Catch Up 滋賀医大

2011.04.04 第14号



東日本大震災へ本学 DMAT チーム(災害派遣医療チーム)を派遣

H23.03.12



医療支援資材の準備

被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

本学は、国からの要請により、3月12日(土)に、医師2名(五月女 隆男、松山 千穂)、看護師2名(佐伯 ふみ子、梅村 由佳)、臨床工学技士1名(吉田 均)の5名で編成する本学

DMATチーム(災害派遣医療チーム)を岩手県花巻空港内の空港拠点広域搬送医療ステーションへ派遣しました。

現地では、搬送されてきた重症患者等の医療支援を夜遅くまで行っているとの情報が届いています。

湖南地域の局所災害時における医師派遣出動要請合意締結調印式が執り行われました。

H23.02.09

平成23年2月9日(水)、湖南広域行政組合総合庁舎(栗東市)において、湖南地域(草津市・守山市・栗東市・野洲市)の局所災害時における医師派遣出動要請合意書の調印式が、中野 宗城 湖南広域消防局長と柏木 厚典 本学附属病院長との署名・押印により執り行われました。

この合意書は、本学附属病院が平成22年3月5日に滋賀県より災害拠点病院(地域災害医療センター)に指定されたことに伴い、湖南地域における局所災害発生時に湖南広域消

防局からの要請に基づき、本院DMATチームの医師、看護師、事務担当者により湖南緊急医療班(KDMAT)を編成して出動し災害現場での医療救護活動を行ったり、被災患者の受入を行うなどの内容となっています。

この合意書の締結は、本学附属病院の他、済生会滋賀県病院及び草津総合病院も取り交わされており、今後湖南地域の災害発生時には、この3病院と湖南広域消防局とが協力・連携して医療救護活動に当たることとなります。



締結された合意書



合意書にサイン

外国人留学生との交流会「国際交流の夕べ」を開催

H23.01.12



留学生有志による日本舞踊

平成 23 年 1 月 12 日(水)、本学に在籍する外国人留学生らとの交流会「国際交流の夕べ」を開催しました。交流会には、日頃、外国人留学生をご支援いただいている関係団体、ボランティアの方々をはじめ、教職員、学生を含めて総勢 100 名余が集いました。

今回は、留学生有志が日本舞踊「ふるさと」と「さくらさくら」を披露してくれました。ボランティアの皆様のご協力

により実施している日本文化月例教室で取り組んだ成果の一端です。艶やかな着物姿に、会場も大いに華やぎ盛り上がりました。

また、本学学生の作法研究会による茶道のお点前披露、アカペラサークルの歌唱、管弦楽団演奏もそれぞれに心のこもった発表で、最後は恒例参加者全員による「琵琶湖周航の歌」合唱と、和やかなひとときを過ごすことができました。

男女共同参画講演会を開催

H23.01.20

本学では、第Ⅱ期中期計画での重点施策としてワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでおり、1月20日、教職員が男女共同参画について認識を深め、一層その推進に努めることを目的に、男女共同参画講演会を開催しました。

講師に文部科学省生涯学習政策局長 板東 久美子氏を招き、ダイバーシティ(多様性)に焦点をあて、「多

様な人材を活かす組織づくり」をテーマに男女共同参画の現状と課題、諸外国との比較、ワークライフ・バランス推進の政策等、幅広い視点から講演がありました。

講演会では、本学の教員、看護師を含むメディカルや事務職員に加え、滋賀大学、滋賀県及び草津市からも多数参加があり、熱心に耳を傾け、男女共同参画について共に理解を深めました。

文部科学省生涯学習政策局
板東局長の講演平成 22 年度「全国コーディネート活動ネットワーク」第 3 回
関西地域会議を開催

H23.01.27



会議の様子



平野特任教授による発表

1月27日(木)京都大学百周年時計台記念館にて平成22年度「全国コーディネート活動ネットワーク」第3回関西地域会議が開催されました。

本会議は、文部科学省及び財団法人日本立地センターの主催で、全国の産学官連携コーディネーターによる全国的なネットワークを構築し、各コーディネーターの連携活動を促進するとともに、各コーディネーターが活動を通じて得た知見等を収集、整理して提供することにより、我が国の産学官連携活動の質的向上を図るとともに、産学官連携施策の立案にも資することを目的に、全国6ブロックで開催されているものです。

今回の会議では今年度に行われた過去2回の会議をふまえ、コーディネート活動の在り方等のテーマにつき討議が行われました。

本学からは、バイオメディカル・イノベーションセンター副センター長である平野特任教授が、「滋賀医科大学での取り組み」について発表を行い、その後情報の共有化、スキルの向上、コーディネーター間の連携、コーディネート活動の効率化等について、活発な討議が行われました。

シンポジウム「在宅ケアの現況」を開催

H23.02.19

本学では、地域貢献事業として障害者等支援のためのシンポジウムを毎年開催し、保健・医療・福祉関係の現場で働く人や当事者・家族の皆様にも積極的にご参加いただいております。

この度、2月19日(土)大津市におの浜にある滋賀県立県民交流センター(ピアザ淡海)207会議室においてシンポジウム「在宅ケアの現況」を開催いたしました。

今回のシンポジウムは、一般の多くの方々に在宅ケアについての現況を知って頂くために、本学医療福祉

教育研究センター長 三ツ浪健一 教授の司会進行の下、フォトジャーナリスト 國森康弘氏、居宅介護支援事業所きらら 森本清美氏、高島市訪問看護ステーション 武内美英子氏、東近江市永源寺診療所 花戸貴司氏、滋賀県健康福祉部医務薬務課医療福祉推進室 要石恵利子氏の5名のシンポジストによる医療・福祉・行政それぞれの立場からの講演の後、参加者らとシンポジストの間で質疑応答や活発な討論が行われ、充実したシンポジウムとなりました。



会場の様子



総合討論の様子

附属病院でひな祭りのイベントを開催

H23.03.01



小児病棟プレイルームでのバルーンアートイベント

ひな人形に見立てたお花
病院玄関が華やかになりました

附属病院では、平成23年3月1日に小児病棟のプレイルームで、入院中の子ども達のためのひな祭りのイベントが開催されました。このイベントは、ボランティアさんのご協力により実現したもので、演奏会とバルーンアートが行われました。

演奏会では、「となりのトトロ」「ドレミの歌」「ひな祭り」などの歌を楽器の演奏に合わせて、みんなで口ずさみ、引き続き行われたバルーンアートのイベントでは、色とりどりの風船から動物やアニメのキャラクターが次々とできあがり、子ども達は目を輝かせて楽しんでいました。

その他の病棟でも、工夫を凝らしたひな飾りや看護師によるハンドベルの演奏、ボランティアの方による大正琴の演奏などが催され、患者さんに楽しい一時を過ごしていただくことができました。

また、2月22日～3月3日には附属病院の玄関ロビーに花を顔に見立てたひな人形を飾りました。これは、患者さんに季節を感じてもらおうと、看護部華道部により製作されたものです。

今後も、入院生活を送る子ども達や病院を訪れる方々に少しでも季節を感じられるような行事を開催してまいります。

平成22年度滋賀医科大学リーダーズ研修を実施

H23.03.02

3月2日(水)13時より、「平成22年度滋賀医科大学リーダーズ研修」を実施しました。この研修は、学生のサークル活動を有意義に発展させること、リーダーとしての自覚と認識を高めること、各サークルの相互理解を深めることを目的としています。

研修は、体育会系・文化会系の各課外活動団体の代表者(キャプテン)34名とアドバイザーとしてワンダーフォーゲル部顧問の木村博教授(生化学・分子生物学講座)他計8名の教

員が参加し、実施されました。

当日は、服部副学長の開講挨拶にはじまり、本学第2期生の江口豊教授(救急集中治療医学講座)による急性アルコール中毒や救急蘇生に関する講演や同じく第12期生の朴真紗美氏による「考え方」とテーマとした講演がありました。

また、班別討議では自ら提案したテーマについて各班で現状や問題点について話し合うなど充実した内容の半日間となりました。



班別討議での模様



江口教授による講習



朴先生による講演



討議結果の発表

ライフサイエンスセミナーを開催

H23.03.07



服部副学長 挨拶

滋賀バイオ産業推進機構が主催するライフサイエンスセミナーが、3月7日(月)に瀬田アーバンホテルで開催されました。

滋賀県は「医療・健康領域」を重点的に取り組むべき分野のひとつに位置付けており、このセミナーは、ライフサイエンス分野への進出や事業化を目指す企業の方に大学等のシーズを上手に取り入れながら産学官連携による取組みを促進していただくことを目指して本学、立命館大学等の研究シーズの中から「医療・健康」「バイ

オ」の各分野から見たライフサイエンスの取組みについて紹介するものです。

セミナーは本学の服部隆則副学長の挨拶に始まり、本学から、小児科の丸尾良浩講師、総合がん治療学講座の醍醐弥太郎教授、睡眠学講座の宮崎総一郎教授が講演し、セミナー及び意見交換会を通じてライフサイエンス関係研究機関・企業等と意見・情報交換を行いました。

平成 22 年度滋賀医科大学卒業式及び学位授与式を 挙行し、198 名の門出を祝いました。

H23.03.10

平成 22 年度卒業式が、3月10日(木)に本学体育館で挙行され、医学科学生104名、看護学科学学生68名が卒業しました。

卒業式では、学位記の授与、学生表彰に続き、馬場学長から告辞があり、「苦難に直面しても正面から立ち向かう気概で志しを高く持ち続け、“一隅を照らす”人として日々の努力重ねてください。」と激励されました。最後に、卒業生代表の謝辞があり、卒業式を終了しました。



馬場学長から卒業生一人ひとりに学位記が手渡されました



卒業生代表による謝辞



学位記の授与が行われました



馬場学長の告辞

午後からは、管理棟2Fの大会議室において大学院学位授与式が挙行され、博士(医学)21名、修士(看護学)5名に学位記が授与されました。

引き続き、各賞の授与式が行われ、馬場学長及び柏木病院長から各受賞者に賞状と副賞が手渡されました。

附属病院で脳死下臓器提供シミュレーションを実施

H23.03.14



脳死判定の一連の手順について確認する脳死判定医と検査技師

滋賀医科大学医学部附属病院では、脳死下における臓器提供シミュレーションを3月14日実施しました。

今回のシミュレーションには、柏木病院長、脳神経外科医、院内の脳死判定医、管理支援医、手術部、検査部の医師、看護師、技師、事務職員に加え、服部副学長がオブザーバーで参加、また、滋賀県から委嘱された院内コーディネーター、日本臓器移植ネットワーク西日本支部及び滋賀県健康づくり財団のコーディネーターなど43名が参加しました。

同病院で策定した、院内マニュアルに沿って、臓器提供者発生時の院内

対応、関係機関への連絡、家族への説明、脳死判定の手順、臓器摘出後の搬送経路の確認、必要書類の作成など一連の処理手順を確認しました。

なお、脳死判定の手順については、スキルズラボの高機能患者シミュレータを使用し、脳死判定医と検査技師が脳死判定の一連の手順について確認を行いました。シミュレーション終了後には、質疑応答やシミュレーション自体の総括を行い、発生から終了までの一連の流れについてあらためて参加者全員で確認しました。

本学 DMAT チーム(災害派遣医療チーム)が 任務を終え帰還

H23.03.15

被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

国からの要請により、本学が3月12日に派遣した、医師2名(五月女 隆男、松山 千穂)、看護師2名(佐伯 ふみ子、梅村 由佳)、臨床工学技士1名(吉田 均)の5名で編成する本学DMATチーム(災害派遣医療チーム)

が、岩手県花巻空港内の空港拠点広域搬送医療ステーションでの医療支援を終え、3月15日全員無事に帰還しました。

現地では、重傷患者の応急処置やトリアージを実施するとともに、全DMATチームのサブコントローラーとして活躍しました。



病院長への報告

「しが医工連携ものづくりクラスター」地域イノベーションクラスタープログラム(グローバル型)平成22年度研究成果報告会」が行われました。

H23.03.18

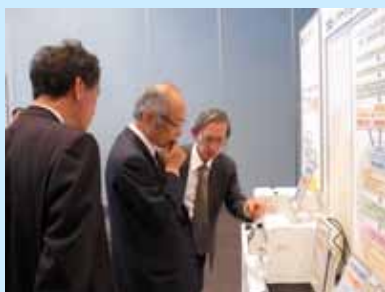


来見教授の成果報告

財団法人滋賀県産業支援プラザと滋賀県が主催し、独立行政法人科学技術振興機構「STイノベーションサテライト滋賀・滋賀医療機器工業会・滋賀医科大学等の後援で、「しが医工連携ものづくりクラスター」地域イノベーションクラスタープログラム(グローバル型)平成22年度研究成果報告会」が3月18日に琵琶湖ホテルで行われました。

工連携ものづくりクラスター」形成の促進を図ることを目的に、多数の出席者で盛況に開催されました。

本学からは、このプロジェクトの共同研究テーマの一つである「体腔鏡手術ロボティック技術が招く高度先端医療の研究開発」について、2グループを代表して総合外科学講座 来見教授が成果報告を行い、参加企業等多数の出席者が熱心に耳を傾けました。



開発機器の展示

この研究成果報告会は、文部科学省から地域イノベーションクラスタープログラム(グローバル型)の選定を受け、「しが医工連携ものづくりクラスター」として開始している「いつでも・どこでも高度先端医療」を実現する次世代診断・治療機器技術の研究開発に係る研究成果及び進捗状況を広く県内企業等に公表・普及することにより、産業応用への関心を高めるとともに、滋賀県における「医

また、「医工連携ニーズ・シーズセッション」が同時開催され、「いつでも・どこでも高度先端医療」の実現を目指す1グループ・2グループの共同研究による開発機器の展示及び「しが医工連携ものづくりクラスター」参画企業のシーズ・情報等の展示会が参加企業等多数の出席者で盛況に行われました。

滋賀医科大学学外有識者会議を開催

H23.03.22



会議の様子

3月22日(火)、滋賀医科大学学外有識者会議を開催し、7名の委員にご出席いただきました。会議では、学長挨拶の後、井村 裕夫議長(先端医療振興財団理事長)の進行により、本学の活動状況について、服部理事から医学科定員増や里親制度等、柏木理事から病院の診療活動状況、村山理事から財務の概要等について説明を行い、各委員から、災害対策、高い医師国家試験合格率維持のための取組、里親制度の成果を生かし

た今後の活動と地域定着に向けた方策、グローバル化に対応したメディカルツーリズムや先進医療への取組、経営面での損益要因などについて様々なご意見・提言をいただきました。

なお、会議終了後、本学栄養治療部等の開発による、滋賀県産食材を使った地産地消の食品による、お弁当やパウンドケーキなどをご試食いただきました。

小松直樹准教授を代表研究者とするJST育成研究の最終報告会を開催

H23.03.23

本学の小松直樹准教授等は、平成20年4月から、独立行政法人科学技術振興機構の研究成果最適展開支援事業(育成研究)として、「ナノダイヤモンドを用いたマルチモーダル分子イメージングプローブの創生」を3年間実施し、一つの区切りとして3月23日(水)午後3時から本学バイオメディカル・イノベーションセンターで最終報告会を開催しました。

この報告会は、事業の参画者であるトーメイダイヤ株式会社、株式会社イオンテクノセンター、和光純薬工業株式会社等の他多くの参加者の下、

JSTイノベーションサテライト滋賀館長のご挨拶の後、本研究課題の代表研究者である生命科学講座小松直樹准教授及び企業代表者の株式会社イオンテクノセンター応用事業部長の研究報告が行われました。

研究報告終了後に行われたディスカッションでは、今回の研究で大変興味深い成果が見込まれることから、育成研究終了後においても、研究を継続して頂きたい等の意見があり、今後における研究の進め方について、JSTのアドバイスを受けながら熱心に話し合が行われました。



小松直樹准教授の研究報告



報告会の様子

平成 23 年 4 月 ~ 6 月の行事予定

4 月 5 日	入学式
4 月 24 日	第 5 回滋賀県脳卒中市民公開講座「脳卒中の医療と連携・地域連携」
5 月 13・14 日	浜松医科大学との学生交流会
5 月 28 日	解剖体慰霊法要

大学概要



国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

所在地：

〒520-2192

滋賀県大津市瀬田月輪町

開学：

1974年10月1日

活動内容：

教育・研究・診療

役員：

学長

馬場忠雄

理事（教育等）

服部隆則

理事（医療等）

柏木厚典

理事（経営等）

村山典久

理事（総務等）

谷川成美



担当

企画調整室

TEL:

077-548-2012

FAX:

077-543-8659

本学 Web サイト URL:

<http://www.shiga-med.ac.jp/>

E-MAIL:

hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

報道された滋賀医科大学 (平成 23 年 1 月～平成 23 年 3 月)

教育関係

2011/03/30	京都	医療人育成へ機構発足
2011/03/19	京都	医師試験に 7686 人合格、滋賀医大が合格率トップ
2011/03/19	読売	医師国家試験合格率 80%
2011/02/28	朝日	藤原三姉妹が栄冠
2011/02/26	各紙(3紙)	県内でも国公立大入試前期日程開始
2011/02/08	滋賀報知新聞	滋賀病院で開設の寄付講座に滋賀医大から 2 教授派遣
2011/02/03	朝日	国公立大学 2 次試験出願状況 2 月 3 日
2011/02/03	京都	国立大 2 次 2 月 3 日
2011/01/29	京都	国立大学 2 次
2011/01/29	朝日	国立大学 2 次試験出願状況
2011/01/20	中日	センター試験・主要大学の入試要項
2011/01/18	産経	国立大学入学手続き 郵送 OK
2011/01/16	読売	センター入試 6003 人挑む
2011/01/16	産経	県内でもセンター入試 5 大学 6 会場に 志願者 6003 人
2011/01/16	中日	6 会場で 5528 人が挑む 県内 センター試験始まる
2011/01/14	中日	滋賀で地域医療担って 地元出身医学生に「里親」
2011/01/08	毎日	無料学習塾の講師 求ム 大学生ら卒業控え継続ピンチ
2011/01/04	京都	ひとりじゃないよ第 2 部 育ちの補助論(3) 「可能性をつなぎたい」

研究関係

2011/02/23	朝日	不眠症社会 我が国も「睡眠の日」必要
2011/02/18	毎日	子供の無呼吸症、サイン見逃さないで
2011/01/15	朝日	ひと交差点 乳がん再発予測法発見 滋賀医科大学 准教授 茶野 徳弘

病院関係

2011/03/31	毎日	心のケアチーム 県が被災地派遣
2011/03/15	中日	東日本 「薬や衛生面 確保必要」救護班第 1 陣戻る
2011/03/10	京都	滋賀病院 医師 11 人増員
2011/03/08	読売	アレルギーっ子のために
2011/02/21	各紙(2紙)	東近江・病院再編 地元医療の未来一緒に考える
2011/02/21	中日	地域医療テーマ 滋賀医科大の副学長が講演
2011/02/11	中日	災害時に医師派遣 滋賀医科大病院 湖南広域消防と合意
2011/02/11	滋賀報知新聞	仮称・東近江総合医療センター整備 25 年 4 月開院へ基本協定調印
2011/02/10	日経	滋賀医大と医師派遣協定
2011/02/10	朝日	東近江と機構基準協定を締結
2011/02/09	各紙(2紙)	3 公立病院集約、再編 滋賀・東近江、センター整備へ
2011/02/06	読売	病院の実力 39 脳卒中.
2011/01/29	京都	良い眠りで元気 朝活より「夕活」を 体温高く思考力アップ
2011/01/17	京都	蒲生病院縮小 市と住民議論
2011/01/15	京都	良い眠りで元気 熟睡中に成長ホルモン 夜勤明けの肌はつやがない
2011/01/12	産経	メタボと糖尿病～その予防をめざして

2011/01/09	読売	病院の実力 100 病理診断 主治医と緊密連携
2011/01/08	京都	良い眠りで元気(9) にっこり寝顔で笑う乳児 レム睡眠で 大脳が発達
2011/01/05	中日	中核病院施設計画動きだす

社会連携

2011/03/08	読売	「わかりやすい！抗がん剤と副作用について」受講生募集
2011/03/04	朝日	小児心臓病の医療講演会
2011/03/04	産経	患者サロン「ゆらり」で講演会
2011/03/03	読売	大津で10日抗がん剤講座
2011/03/01	読売	第10回市民公開講座「お嬢さんにワクチンを！子宮がん予 防ワクチンの正しい理解のために」
2011/03/01	読売	学校での注意点解説 小児心臓病講演会
2011/02/27	毎日	子育て中のお父さんのための睡眠講座ほか
2011/02/24	京都	滋賀医科大学公開講座「わかりやすい！抗がん剤と副作用 について」
2011/02/20	京都	市民講座「お嬢さんにワクチンを！子宮がん予防ワクチン の正しい理解のために」
2011/02/19	読売	子宮がん予防ワクチンの話
2011/02/18	産経	市民講座を開講 「シンポジウム 在宅ケアの現況」他
2011/02/18	京都	市民公開講座「歯周病と糖尿病の関係 その深いかかわり を探る」
2011/02/18	朝日	シンポジウム「在宅ケアの現状」
2011/02/11	朝日	市民講座「お嬢さんにワクチンを！子宮がん予防ワクチン の正しい理解のために」
2011/02/11	朝日	市民の健康と栄養を考える
2011/02/09	京都	市民の健康と栄養を考える会「5年10年も元気であるコ ツ！」
2011/02/09	京都	アレルギー学会 大津で公開講座
2011/02/08	京都	滋賀アレルギーフォーラム「花粉症との関連疾患」.
2011/02/04	朝日	滋賀医科大学市民公開講座 「血压が語るリスクサイン」.
2011/02/04	朝日	滋賀アレルギーフォーラム 花粉症とその関連疾患
2011/02/03	読売	医療講演会
2011/02/01	読売	滋賀医科大学 「自分でできる生活習慣病の予防」受講生 募集

その他

2011/03/26	朝日	フロントライナー_菜の花が、地域と地球を救う 菜の花地 域プロジェクトネットワーク代表 藤井 絢子さん
2011/02/19	中日	エジプト大統領退陣1週間「新しい時代 始まった」滋賀 医大客員研究員